

平成22年度 常緑果樹関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績
検討会は、平成23年6月21日(火)に浅草ビューホテルに
おいて開催された。
この検討会には、試験場関係者24名、委託関係者16

名ほか、計51名の参集を得て、生育調節剤3薬剤(29点)
について、試験成績の報告と検討が行われた。
その判定結果および使用基準については、次の判定表
に示す通りである。

平成22年度 常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 生育調節剤

注) アダージンは新たに判定された部分を示す

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
1. ARD-8147 水溶 1-ナフタレン酢酸ナトリウ ム:22% [アグロネーション]	天草	適用性 新規	福岡	(1) ねらい 全摘果 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後)/1回 <水量> 1000倍 <十分量> /10a	・展着剤を加用する	継	[天草:全摘果] (継) ・効果、葉害の確認
	伊予柑	適用性 新規	山口 柑柑振 福岡	(2) ねらい 全摘果 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後)/1回 <水量> 1000倍 <十分量> /10a	・展着剤を加用する	継	[伊予柑:全摘果] (継) ・効果、葉害の確認
	清見	適用性 新規	福岡 佐賀 果樹試	(2) ねらい 全摘果 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後)/1回 <水量> 1000倍 <十分量> /10a	・展着剤を加用する	継	[清見:全摘果] (継) ・効果、葉害の確認
	せとか	適用性 新規	福岡 長崎	(2) ねらい 全摘果 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後)/1回 <水量> 1000倍 <十分量> /10a	・展着剤を加用する	継	[せとか:全摘果] (継) ・効果、葉害の確認
	はるみ	適用性 新規	山口 柑柑振 福岡	(2) ねらい 全摘果 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 生理落果盛期(満開10~20日後)/1回 <水量> 1000倍 <十分量> /10a	・展着剤を加用する	継	[はるみ:全摘果] (継) ・効果、葉害の確認
2. ジベレリン 塗布 ジベレリン:2.7%	河内晩 柑	適用性 継続	愛媛 果樹研 愛媛 みかん研 熊本 果樹研 熊本 天草	(4) ねらい 後期落果防止 設計 立木全面散布あるいは枝別散布 薬量 果実着色期~収穫予定14日前 <水量> 1000倍(1回) <十分量> /10a 2000倍(2回) <十分量> /10a 2000倍(2回) <十分量> /10a	・2回目の散布は1回 目の10~14日後に 行う	実 ・ 継	実) [河内晩柑:後期落果防止] ・果実着色期~収穫予定14日前 ・1000倍 2回 十分量 ・立木全面散布あるいは枝別散布 (継) ・2000倍処理での効果の確認 ・1回処理での効果の確認
	ぶんた ん	適用性 継続 (自主)	高知 果樹試	(1) ねらい 果実肥大促進 設計 結果枝塗布 薬量 満開50日後 5~10mg/果実 <水量> 満開70日後 5~10mg/果実 /10a 満開90日後 5~10mg/果実	・露地(土佐文旦)お よび施設(水晶文 旦)での検討	継	[ブナク:果実肥大促進] (継) ・効果、葉害の確認
2. ジベレリン 塗布 ジベレリン:2.7%	温州ミ ノ(石地)	適用性 継続 (自主)	広島 果樹	(1) ねらい 新梢伸長促進 設計 新梢基部塗布 薬量 発芽期~展葉期 100mg/頂芽 <水量> 対)無処理 /10a	・新梢長、新梢基部 径、萌芽から摘芯ま での所要日数を調 査する。	実	実) [ウツリミ] (石地):新梢伸長促 進 ・新梢萌芽期 ・100mg/枝 ・新梢基部塗布

A. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
3.ジベレリン+PDJ 水溶液 ジベレリン: 3.1% アブヒドロキシモン: 5% 〔日本ジベレリン研究会 *日本ゼン〕	伊予柑	適用性 継続	香川 府中 愛媛 みかん研 (2)	ねらい 花芽抑制による樹勢の維持 設計 立木全面散布又は枝別散布 収穫直後～収穫約1ヵ月後 PDJ 50ppm+GA 10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 10ppm <十分量> 対)ジベレリン 立木全面散布又は枝別散布 収穫直後～収穫約1ヵ月後 GA25ppm <十分量>	・ジベレリンとPDJの混 用での花芽抑制に よる樹勢維持の検 討 ・新梢数、有葉花数、 直花数の調査を希 望 ・前年の着果状況で 試験樹を選定(中程 度の結実であった 樹) ・作物名はカンキツ としたい	実	実) 〔伊予柑; 花芽抑制による樹勢維 持〕 ・収穫直後～収穫約1ヵ月後 ・PDJ25～50ppm+GA10ppm 十分量 ・立木全面散布 ・効果の確認された品種: ワシタミカ、伊予柑、清見、不知 火、はるみ
	はるみ	適用性 継続	山口 柑初振 愛媛 果樹研 (2)	ねらい 花芽抑制による樹勢の維持 設計 立木全面散布又は枝別散布 収穫直後～収穫約1ヵ月後 PDJ 50ppm+GA 10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA 10ppm <十分量> 対)ジベレリン 立木全面散布又は枝別散布 収穫直後～収穫約1ヵ月後 GA25ppm <十分量>	・ジベレリンとPDJの混 用での花芽抑制に よる樹勢維持の検 討 ・新梢数、有葉花数、 直花数の調査を希 望 ・前年の着果状況で 試験樹を選定(中程 度の結実であった 樹) ・作物名はカンキツ としたい		
	温州ミ カ	適用性 継続	愛知 和歌山 果試 徳島 果樹研 (3)	ねらい 落果防止 全面散布 設計 全面散布 開花始め～満開期 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 満開7～10日後 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 対)ジベレリン 全面散布 開花始め～満開10日後 GA25ppm <十分量>	・PDJと混用すること によりジベレリン濃 度の低減が可能か 検討する・作物名は カンキツとしたい・試験前に着花数 を調査する・一次落 果後および二次落 果後に着果率を調 査する	実	実) 〔ワシタミカ; 落果防止〕 ・開花始め～満開10日後 ・ジベレリン10ppm+PDJ25～50ppm 十分量 ・散布
	伊予柑	適用性 継続	山口 柑初振 愛媛 みかん研 (2)	ねらい 落果防止 全面散布 設計 全面散布 開花始め～満開期 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 満開7～10日後 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 対)ジベレリン 全面散布 開花始め～満開10日後 GA25ppm <十分量>	・PDJと混用すること によりジベレリン濃 度の低減が可能か 検討する・作物名は カンキツとしたい・試 験前に着花数を調 査する・一次落果後 および二次落果後 に着果率を調査す る	継	〔伊予柑; 落果防止〕 ・効果、葉害の確認
	清見	適用性 継続	和歌山 果試 (1)	ねらい 落果防止 全面散布 設計 全面散布 開花始め～満開期 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 満開7～10日後 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 対)ジベレリン 全面散布 開花始め～満開10日後 GA25ppm <十分量>	・PDJと混用すること によりジベレリン濃 度の低減が可能か 検討する・作物名は カンキツとしたい・試 験前に着花数を調 査する・一次落果後 および二次落果後 に着果率を調査す る	継	〔清見; 落果防止〕 ・効果、葉害の確認
不知火	適用性 継続	広島 果樹 熊本 果樹研 (2)	ねらい 落果防止 全面散布 設計 全面散布 開花始め～満開期 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 満開7～10日後 PDJ 50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ 25ppm+GA10ppm <十分量> 対)ジベレリン 全面散布 開花始め～満開10日後 GA25ppm <十分量>	・PDJと混用すること によりジベレリン濃 度の低減が可能か 検討する・作物名は カンキツとしたい・試 験前に着花数を調 査する・一次落果後 および二次落果後 に着果率を調査す る	実	実) 〔不知火; 落果防止〕 ・開花始め～満開10日後 ・ジベレリン10ppm+PDJ25～50ppm 十分量 ・散布	

A. 生育調節剤

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ◇は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	備 考	判 定	判定内容
3. ジベレリン+PDJ 水溶+液 つづき	ポンカン	適用性 継続	静岡 伊豆 鹿兒島	(2) ねらい 落花防止 全面散布 設計 薬量 <水量> /10a 全面散布 開花始め～満開期 PDJ50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ25ppm+GA10ppm <十分量> 満開7～10日後 PDJ50ppm+GA10ppm <十分量> PDJ25ppm+GA10ppm <十分量> 対) ジベレリン 全面散布 開花始め～満開10日後 GA25ppm <十分量>	・PDJと混用すること によりジベレリン濃度 の低減が可能か検討 する・作物名はカ ンキツとしたい・試 験前に着花数を調 査する・一次落果後 および二次落果後 に着果率を調査す る	継 継	[ポンカン;落花防止] ・効果、葉害の確認
	伊予柑	適用性 継続	香川 府中 愛媛 みかん研	(2) ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 果実を中心に全面散布 着色始期 PDJ50ppm+GA5ppm <十分量> PDJ50ppm+GA3.3ppm<十分量> PDJ25ppm+GA5ppm <十分量> PDJ25ppm+GA3.3ppm<十分量>	・ジベレリンとPDJの混 用での水腐れ防止 効果の検討 ・枝別処理でも可 ・水腐れ程度、着色程 度、果実品質の調 査を希望 ・着色が遅延する場 合がある	継 継	[伊予柑;水腐れ軽減] ・効果、葉害の確認
	不知火	適用性 継続	熊本 天草 鹿兒島	(2) ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 水腐れ軽減 果実を中心に全面散布 果実を中心に全面散布 着色始期 PDJ50ppm+GA5ppm <十分量> PDJ50ppm+GA3.3ppm<十分量> PDJ25ppm+GA5ppm <十分量> PDJ25ppm+GA3.3ppm<十分量>	・ジベレリンとPDJの混 用での水腐れ防止 効果の検討 ・枝別処理でも可 ・水腐れ程度、着色程 度、果実品質の調 査を希望 ・着色が遅延する場 合がある	継 継	[不知火;水腐れ軽減] ・効果、葉害の確認
	はるみ	適用性 継続	山口 柑柿振 愛媛 果樹研	(2) ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 水腐れ軽減 果実を中心に全面散布 果実を中心に全面散布 着色始期 PDJ50ppm+GA5ppm <十分量> PDJ50ppm+GA3.3ppm<十分量> PDJ25ppm+GA5ppm <十分量> PDJ25ppm+GA3.3ppm<十分量>	・ジベレリンとPDJの混 用での水腐れ防止 効果の検討 ・枝別処理でも可 ・水腐れ程度、着色程 度、果実品質の調 査を希望 ・着色が遅延する場 合がある	継 継	[はるみ;水腐れ軽減] ・効果、葉害の確認
	ポンカン	適用性 継続	静岡 伊豆 高知 果樹試 熊本 天草 鹿兒島	(4) ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 水腐れ軽減 果実を中心に全面散布 果実を中心に全面散布 着色始期 PDJ50ppm+GA5ppm <十分量> PDJ50ppm+GA3.3ppm<十分量> PDJ25ppm+GA5ppm <十分量> PDJ25ppm+GA3.3ppm<十分量>	・ジベレリンとPDJの混 用での水腐れ防止 効果の検討 ・枝別処理でも可 ・水腐れ程度、着色程 度、果実品質の調 査を希望 ・着色が遅延する場 合がある	継 継	[ポンカン;水腐れ軽減] ・効果、葉害の確認
	温州ミカ ン	適用性 新規	山口 柑柿振 香川 府中 (自主)	(2) ねらい 設計 薬量 <水量> /10a 浮皮軽減 果実散布 収穫予定3ヶ月前 ジベレリン2.0ppm+PDJ25ppm <十分量> ジベレリン2.0ppm+PDJ50ppm <十分量> ジベレリン2.5ppm+PDJ25ppm <十分量> ジベレリン2.5ppm+PDJ50ppm <十分量> ジベレリン3.3ppm+PDJ50ppm <十分量> 対) 無処理	・ジベレリン低濃度での 効果確認	実 継	実) [カンキョウミカン;浮皮軽減] ・収穫予定3ヶ月前 ・ジベレリン3.3～5ppm +PDJ25～50ppm 十分量 ・散布(果実表面に十分付着する よう) 注) ・使用時に混用する ・着色が遅延する事があるため貯 蔵用のカンキョウミカンで使用する ・処理により緑斑を生じることが ある
	温州ミカ ン	適用性 新規 (自主)	長崎 (H22, H21参考)	(1) ねらい 設計 薬量 <水量> /10a クラッキング 防止 枝別散布 着色8～9分時(収穫20～30日前) PDJ50ppm+GA5ppm <十分量> PDJ50ppm+GA3.3ppm<十分量> PDJ25ppm+GA5ppm <十分量> PDJ25ppm+GA3.3ppm<十分量> 対) 無処理		継 継	[カンキョウミカン;クラッキング 防止] ・効果、葉害の確認